

埼玉県気候変動適応センター 事例紹介

埼玉県環境科学国際センター
原 政之

①県の特徴

- 2009年頃から、気候変動適応に取り組んできた

2009年3月	2010年4月	2012年2月	2015年5月	2016年3月	2018年12月
<p>埼玉県地球温暖化対策実行計画と温対条例に適応策を明記</p> 	<p>埼玉県環境科学国際センターに温暖化対策担当を設置するとともに、環境省S-8に参画</p> 	<p>県庁内に「適応策専門部会」を設置</p> <p>地球温暖化対策推進委員会 副知事 各部長 地球温暖化対策推進委員会幹事 環境部副部長 各主幹課長 適応策専門部会 環境課課長 適応策専門部会作業部会 専門部会所属の各課職員</p>  <p>研修会</p>  <p>予測情報の提供</p>	<p>埼玉県地球温暖化対策実行計画を改訂し、適応策を充実</p>  <p>適応策の主流化</p> <p>適応策の順応的推進</p>	<p>埼玉県適応計画（地球温暖化への適応に向けて～取組の方向性～）を策定・発表</p> 	<p>12月1日の法施行に合わせ、埼玉県環境科学国際センターを地域気候変動適応センターに位置づけた。</p>

(参考)「地球温暖化への適応に向けて～取組の方向性～」 概要

第1部 本書の位置付け

第2部 影響評価結果等一覧及び今後の主な取組の方向性

1 影響評価結果及び既存施策等の点検結果一覧

大項目	小項目	影響評価結果		既存施策等の点検結果		
		短期的な影響・被害の発生程度 (A)	長期的な影響の総合評価(影響の大きさ) (B)	影響把握・取組方針 (C-1)	関連既存施策等の現状 (C-2)	推進体制・基盤整備 (C-3)
農業・林業・水産業						
農 業	水 稻	○	○	□	△	△
	野 菜	○	—			
	果 樹	○	△			
	麦、大豆、飼料作物等	○	△			
	病害虫、雑草	—	—	□	□	□
	農業生産基盤	○	△	—	—	—
林 業	木材生産(人工林等)	—	○	□	—	—
	特用林産物(きのこ類等)	—	□			
水産業	増養殖等	□	□	影響発生の可能性が小さいため点検対象外		
水環境・水資源						
水環境	湖沼・ダム湖	○	△	□	□	□
水資源	水供給	○	△	□	△	□
自然生態系						
陸域生態系	高山系・亜高山帯	○	—	□	—	—
	自然林・二次林					
	里地・里山生態系					

大項目	小項目	影響評価結果		既存施策等の点検結果		
		短期的な影響・被害の発生程度 (A)	長期的な影響の総合評価(影響の大きさ) (B)	影響把握・取組方針 (C-1)	関連既存施策等の現状 (C-2)	推進体制・基盤整備 (C-3)
陸域生態系	人工林	○	—	□	—	—
	野生鳥獣による被害					
	生物季節	○	—	□	—	—
	分布・個体群の変動(在来種)	○	—	□	□	—
自然災害						
河 川	洪 水	○	○	△	△	△
	内 水	—	—	△	□	△
山 地	土石流・地すべり等	—	○	△	△	△
健 康						
暑 熱	死亡リスク	—	○	□	□	□
	熱中症	○	○	□	□	□
感染症	節足動物媒介感染症	□	—	□	—	—
複合影響	光化学オキシダント濃度の上昇	—	—	□	□	□
県民生活・都市生活						
その他	暑熱による生活への影響	○	○	△	△	△

【凡例】(A) ○: 影響・被害が発生している可能性あり、—: どちらとも言えない・不明、□: 影響・被害が発生している可能性なし (B) ○: 大きい、△: 中程度、□: 小さい、—: 現状では評価できない

(C-1～3) ○: 速やかに着手・検討(取り組むこと、構築)が必要、△: 着手・検討(取組、構築)の加速化が必要、□: 順調・対応済み —: 現状では評価できない

2 今後の主な取組の方向性

農業 (水稲) 短 期: 高温障害を軽減する農作物栽培管理技術の開発及び普及・定着
中長期: 高温耐性を持つ優良品種の育成・導入及び普及

暑熱 (熱中症) 短 期: ハイリスク者への見守りや声掛けの強化、「まちのクールオアシス」の拡充
中長期: 関連部局や民間企業等との連携を深め、対策を継続・強化

河川 (洪水) 短 期: 河川の防災情報の発信や洪水ハザードマップ活用等の推進
中長期: 気候変動に伴って増大するリスクの評価及び必要に応じた対策の見直し

県民生活・都市生活 (暑熱による生活への影響) 短 期: 大規模施設や住宅街等におけるヒートアイランド対策の推進
中長期: 「彩の国みどりの基金」を活用した緑の創出

第3部 分野別取組の方向性

- 分野別に「影響評価結果」、「既存施策等の点検結果」及び「今後の取組の方向性」を整理
- 先駆的な適応策の取組を記載(記載分野: 農業、自然災害(河川)、健康(暑熱)、県民生活・都市生活(暑熱による生活への影響))

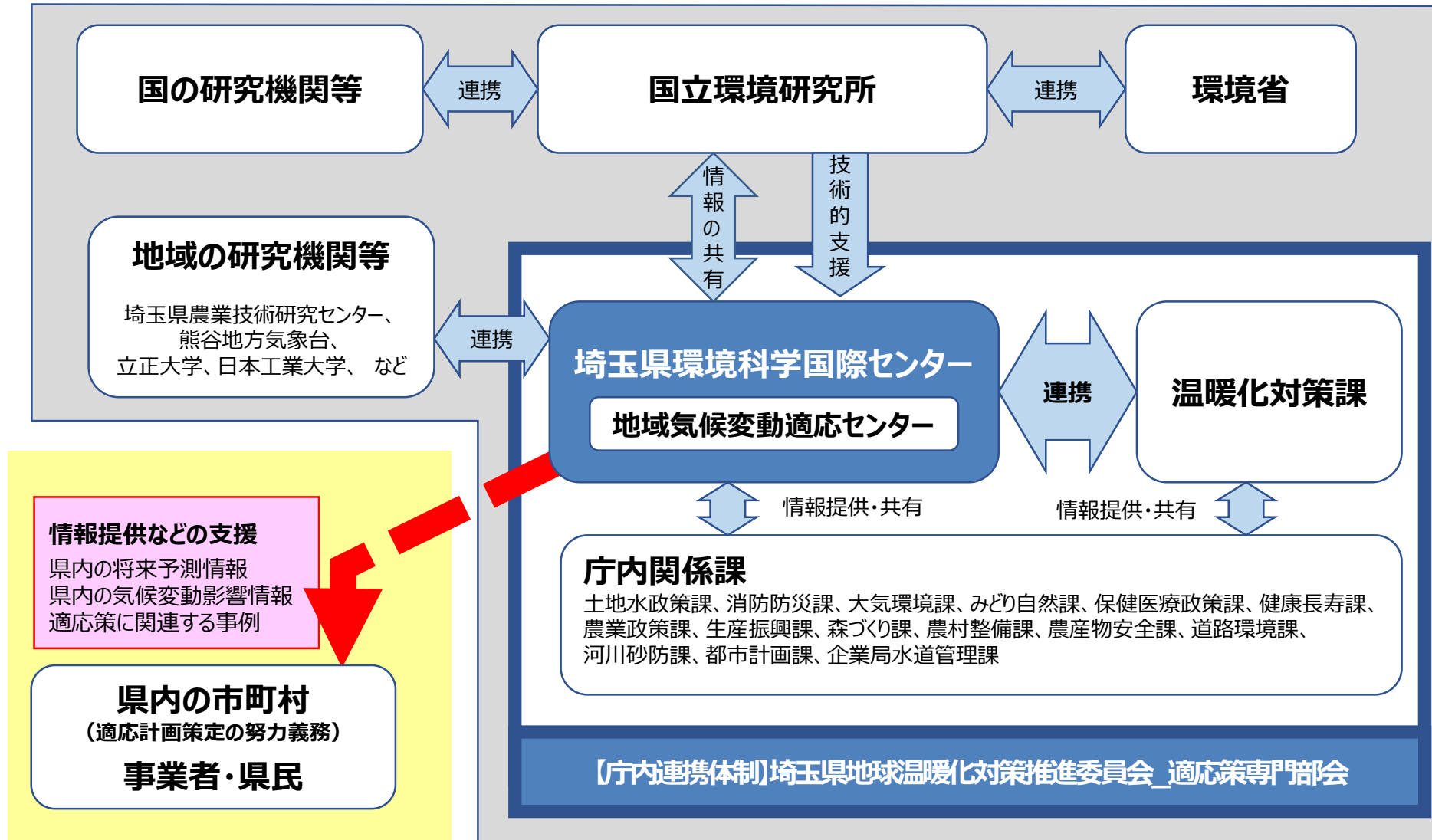
②適応センター設置の経緯

- 気候変動適応法公布後から適応センター設置の検討を始め、施行と同時に適応センターを設置した。
- 県温暖化対策課（緩和策・適応策の担当課）及び環境政策課（環境部主幹課）及び弊所から設置についてボトムアップで検討を行った。

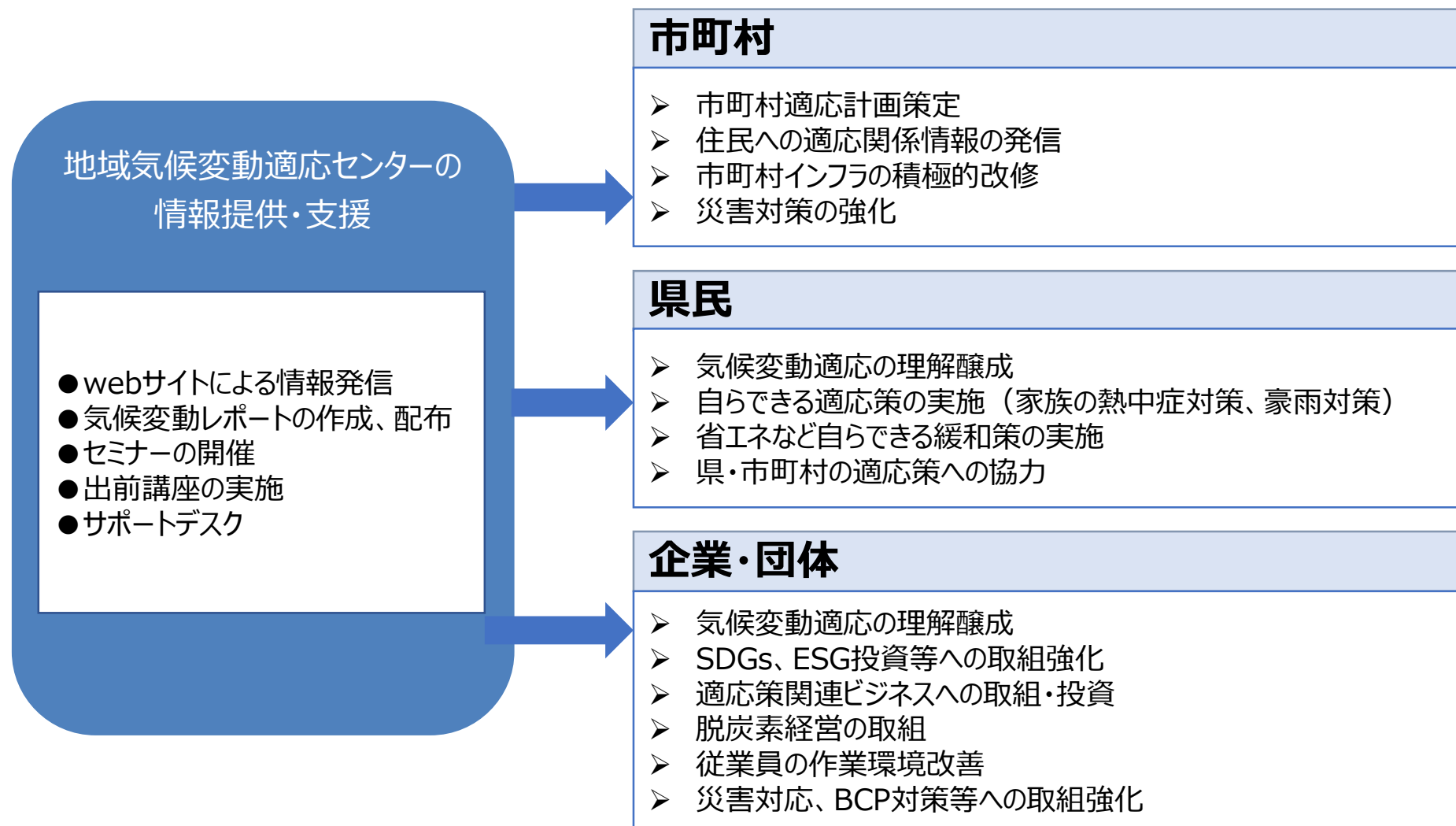
③これまでの取組み、今後の取組み

- 以前からの継続的な取組み
 - 環境研究総合推進費S-8、文部科学省SI-CAT（RECCA）などを通じた、気候変動適応に関する情報収集、情報共有、県庁内での取組みの機運醸成
- 設置後の取組み
 - SAI-PLAT（埼玉県気候変動適応情報プラットフォーム）の開設
 - 気候変動サイエンスカフェの開催（今年度3回）
- 今後の取組み
 - 埼玉県気候変動影響評価報告書の改訂
 - 県民向けパンフレットの作成

埼玉県気候変動適応策の推進体制



地域気候変動適応センターの設置により見込む効果



⑤適応センターの運営等での課題

- 全国初の適応センターということもあり、国や自治体など関係各所からの問合せが多く、その対応が…
- 競争的研究資金（環境研究総合推進費、文科省SI-CAT・科研費）により、資金面の補強、外部からの情報収集
 - 継続的な予算の裏付けがない
 - A-plat作成以前から取り組んでいたため、まだA-platを有効活用できていない（積極的に活用したい）

⑥適応センターの設置のメリット

- これまであまり力を入れてこなかった、県民・県内市町村・事業者へ向けた情報発信を行うきっかけとなった